

目 次

地域に立脚した技術開発	・ ・ ・ ・ ・	(神藤 宏)	・ ・ ・ 1	
研究の成果	センリョウの2年枝を用いた挿し木法	・ ・ ・ ・ ・	(紺谷 均)	・ ・ ・ 2
	スターチス「フラスコ苗」の低温処理および育苗温度が			
	収量に及ぼす影響	・ ・ ・ ・ ・	(小川大輔)	・ ・ ・ 3
	シュッコンカスミソウのつぼみ切り技術	・ ・ ・ ・ ・	(小谷真主)	・ ・ ・ 4
おしらせ	平成21年度人事異動	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ 4	



センリョウの栽培



プール挿し (本文2頁)

地域に立脚した技術開発

暖地園芸センター所長 神藤 宏

暖地園芸センターでは県オリジナル品種の育成と新たな情勢に対応した収益性の高い農業技術の開発を研究方針に掲げ、紀中・紀南地域における花き・野菜の研究拠点として、志を持って園芸研究に精進しています。

また、平成21年度から新規研究課題の取り組みとして、花きではヒートポンプを活用した局所冷房によるスターチスとトルコキキョウの早期多収生産技術開発、野菜では実エンドウの生理機能の解明による高品質・多収生産技術開発を開始しています。得られた研究成果はできるだけ迅速に、地域の立地条件や情勢に即した形で生産現場につなげます。

当センターは、その研究・技術開発の基本を、消費者の多様なニーズの適格な把握とそれに応える生産者の意欲的な取り組みの支援に置いてきました。

今、時代は、環境・省エネ・エコを強く意識しています。これらは当然農業生産にも求められることでもあります。このためにも、当センターでは、職員の資質向上に努め、柔軟な研究体制を構築します。

今後とも、職員一同、地域から寄せられる大きな期待に応えるべく、より一層地域に密着した効果的な研究を進めます。

